



名村 肇 議員



外山正利 議員

唄に負けない梅の郷に

町長——公園の梅の管理を徹底したい



梅まつり

議員 梅の里真室川町、真室川公園は自然林に増設された梅公園、植えられている梅の本数、面積の広さはすばらしいものである。そこで公園の梅の花だけではなく、町内一円梅の花で一杯にしようと思っている。人口が余り少なくならないうちに梅の苗木を植え、民謡「まむろ川音頭」の唄に負けない梅の郷にするには、今がチャンスだとい

える。なぜなら、真室川公園を核にして町内一円梅の花が咲き誇っている事を想像してほしい。それに公園より一足延ばせば秋山牧場があり、畜産の町にも近づこうとしており、米沢牛にも負けない美味しい牛肉である事は先に試食済みである。例えば、梅まつりに報道各社を招き昼食付き、おみやげ付きの接待をします。まずまつりの意見を聞い

てみることも必要と思う。梅まつり担当者も柔軟な考え方をもち、遊び心を持って取り組んでみてはどうか。真室川音頭の唄の文句に、「花の咲くの待ちかねて、蓄のうちから通てくる。」とあるが、それともこれ有名な民謡「真室川音頭」発祥の地であるからである。やがて真室川町が梅の郷になる日を夢見、期待していることから「一戸に一本の梅の苗木を配る」考えはないか伺う。

町長 町内一円に梅の花が咲く様に一戸一本梅の苗木の配付についてであるが、以前町村合併記念事業の一環で全戸配付を行った。しかし、現在定着している梅の木はわずかであり、栽培管理の



町内産牛肉の焼肉～おいしいネ！

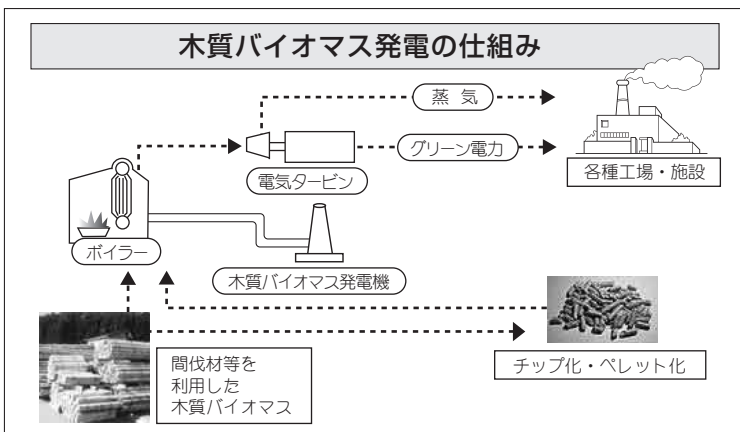
基幹産業林業振興で雇用創出を

町長——総合計画、施策6項目の事業展開を進める

議員 2年度目に入る総合計画前期基本計画の林業施策の具体化は。
町長 総合計画の大綱は森林の健全育成と保全、土砂災害の防止・水源のかん養等の公益的機能を理解し・森林の健全育成と保全に努めながら、森林資源の有効活用を図る。このような現状の中で、町内森林の80%を管理する山形森林管理署最上支署や最上広域森林組合との連携を図りながら、総合計画前期基本計画の林業の振興、次の6つの施策を進めていく。

第1の林業経営体の体質強化を促進し実情に即した林業施策については、森林法改正に伴う市町村森林整備計画により、公益森林と木材生産維持増進森林を設定し維持増進をはかる。
第2の計画的な林種転換を共に造林を進め枝打ち、除伐、間伐旋業の啓発普及による生産、また木造公共建築物やバイオマス利用、木材の需要拡大には、3年間延長された森林整備の加速化・林業再生事業、森林造り基盤整備交付金等により引き続き間伐旋業を計画する、バイオマス利用として、梅里苑に木質バイオマスボイラーの導入を新たに計画した。

第3の共同化により面的計画的な旋業を促進するため、作業道の整備・搬出間伐のコスト削減、効率的な搬出路網の整備を図る。
第4の森林の持つ公益機能の維持、保安林の整備を進め、林地災害の防



止及び生産の保持については、町民の要望を反映させ治山整備を進め併せて保安林指定についても進める。
第5の国有林野事業と連携を図り、自然環境保全を前提とした森林空間交流の創出については、「やまがたの森」の候補地を町有林を登録する。
第6の特産品として漆器生産等の拠点となる、うるしセンター充実を図る。
議員 産業振興・雇用創出を視点に大型プロジェクトとして取り組むべき。
町長 指摘のとおり、林業生産者の意向を踏まえ、町内に事務所のある山形

森林管理署や最上広域森林組合との連携や林業関連企業などの意見交換を進め、効果的、実効性のある事業展開を模索していく。
議員 国の補助金を活用し、森林組合・林業と一体となって、木質バイオマス発電の設置は。
町長 木質チップの地産地消化の検討を図っている。